

第 58 回 基本計画部会 議事概要

1 日 時 平成 27 年 3 月 23 日（月）10:00～10:26

2 場 所 中央合同庁舎 4 号館 12 階共用 1208 特別会議室

3 出席者

【委員】

西村部会長、川崎委員、北村委員、西郷委員、白波瀬委員、中村委員、中山委員、野呂委員、前田委員

【統計委員会運営規則第 3 条による出席者】

《国または地方公共団体の統計主管部課の長等》

内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官、総務省統計局統計調査部長、財務省大臣官房総合政策課調査統計官、厚生労働省大臣官房統計情報部長、農林水産省大臣官房統計部長、経済産業省大臣官房調査統計審議官、国土交通省総合政策局情報政策課長、日本銀行調査統計局参事役、東京都総務局統計部長

【事務局等】

杉原内閣府大臣官房審議官、伊藤内閣府大臣官房統計委員会担当室長、佐藤内閣府大臣官房統計委員会担当室参事官、田家総務省政策統括官（統計基準担当）、小森総務省政策統括官付統計企画管理官

4 議 事

(1) 平成 25 年度統計法施行状況に関する審議結果（未諮問基幹統計確認関連分）について

(2) その他

5 議事概要

(1) 平成 25 年度統計法施行状況に関する審議結果（未諮問基幹統計確認関連分）について

事務局から資料 1（報告書案）に基づいて説明が行われた後、西村部会長から報告書案に説明不足と思われる箇所があるとのことから、2 点の修正意見が発言された上で議論が行われた。細かな文言については西村部会長が検討し、メール等を通じて委員の了解を得るというプロセスを踏むという前提の下、西村部会長に一任された。

【西村部会長の修正意見】

・家計統計の（2）(ii) の「ウ 個人消費の把握の充実について」において「個人消費の把握の充実に向けた取組として、家計調査と家計消費状況調査の連携強化を図

る観点から、家計消費状況調査の結果公表の早期化とともに、両調査結果から作成される家計消費指数の公表の早期化に向けた検討を進めていることについては、評価できる。」の後に、「ただし、家計調査だけでなく家計消費状況調査にも振れはあり、その公表を早期化しても、個人消費の把握に関する問題をすべて解消するというものではない、という指摘もあり、留意が必要である。」といったニュアンスの一文を挿入したい。

- ・家計統計の(2)(ii)の「エ その他」において、「家計統計は多方面で利用され、構造的な分析の面での有用性が指摘されるなどその重要性が認識された一方、景気の判断やこれに資する統計作成に当たって過度な期待があるとの指摘もあった。したがって、家計統計の利用に当たっては(景気の判断やこれに資する統計作成に当たっての基礎情報として利用する場合を含む。)」の後に、「家計統計が振れのある統計であることを認識し」という文言を挿入したい。

【主な議論】

- ・部会長の修正意見に賛同する。家計統計、家計消費状況調査ともに振れが大きいという事実を統計委員会の共通認識として表明することが重要。
 - ・家計消費状況調査の公表早期化は歓迎するが、早期化すれば状況が全て解決されるという意見はなかったので、ここで記述することには疑問。「エ その他」における振れがあることに関する修正については、当然であり反対しないが、「ウ 個人消費の把握の充実について」で一回言っており、再度書くのはどうか。
- 「評価できる」と無条件に書いて、公表早期化すれば全て解決されるような印象を与えることは避けたい。また、エについては必ずしも当然と思われていないことが大きな問題で、冗長かも知れないが、入れることで強いインパクトを与えられる。
- ・反対しないが、公表早期化について評価しながら評価しないという、よく分からない文章となり、「これをしたから全てが解決される訳ではない」と全ての箇所と言わなければならないのではないか。エについても、家計調査に限らず全ての標本調査に振れがあるのは当然であり、家計統計でなぜ振れが問題になるかということ、景気判断のためには、元々設計された標本誤差より高い精度が求められるからということにある。振れがあるから留意してほしいという趣旨を入れるとすれば、全ての標本調査には振れがあり、家計調査にはそれに加え家計の支出自体によって起こる振れの要素があることを入れていただきたい。家計統計、家計消費状況調査には振れがあると言うだけでは議論が前に進まない。ここで伝えたいメッセージは、振れを抑える努力をしてほしいということと、振れの要因について理解を深めるための情報提供をしてほしいということにある。個人消費を把握するには、家計統計や家計消費状況調査だけでなく、他の関連統計も含めて把握の仕方を改善していく努力が常に必要という趣旨の中の一つとして入れたことが分かればなお良い。
- 本来なら「評価できる」の前に何かコンディショナルな文言を入れなければならない

いが、文章が非常に長くなる。家計統計になぜ振れがあるかという問題も含め、書き方を考えたい。

【部会長まとめ】

景気判断やそれに資する統計については今後どうすべきかを考え、統計委員会が責任を持ってフォローしていく必要がある。次年度以降の法施行状況審議の中で、日本全体の統計について横断的に議論する場で検討していきたい。

(2) その他

北村委員から、統計調査の実施現場の現状を把握するため、2月23日に総務省政策統括官（統計基準担当）が実施した平成26年度登録調査員中央研修を視察した際の感想が述べられた。

以上

<文責 内閣府大臣官房統計委員会担当室 速報のため事後修正の可能性あり>